

< 協議会 2 日目 >

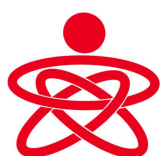
日本語教育人材のキャリアパス

～現場で活躍する先輩に直接聞いてみよう！～

日 時:平成28年10月2日(日) 10:00～13:00

場 所:大阪市立総合生涯学習センター

第 1 研修室



○日本語教育人材のキャリアパス～現場で活躍する先輩に直接聞いてみよう！～

趣 旨：日本語教師が活躍する分野は多岐に渡ります。それぞれの現場で専門性を発揮し、活躍する日本語教育人材の皆さんに、現場で今取り組んでいることや課題、またこれまでのキャリアパスなどについて、直接お話を聞ける場を作りました。仕事として日本語教育に関わる先輩に、進路の相談や現在の課題など、直接質問をぶつけてみてください。



●スピーカー

1. 海外で教える〔派遣専門家〕
・・・ 信岡 麻理さん（国際交流基金関西国際センター）
2. 海外で教える〔日本語パートナーズ〕
・・・ 白井 友恵さん
3. 海外で教える〔JICA青年海外協力隊〕
・・・ 浦井 智司さん（京都外国語大学院生）
4. 海外で教える〔JICA日系社会青年ボランティア〕
・・・ 岩永 麻里さん（日本語学校勤務）
5. 外国にルーツのある子供たちに教える
・・・ 菊池 寛子さん（西尾市教育委員会）
6. 就労希望者に教える
・・・ 小笠原 雅子さん
（一般財団法人日本国際協力センター）
7. 技能実習生に教える
・・・ 黒羽 千佳子さん
（公益財団法人国際研修協力機構）
8. 看護・介護職希望者に教える
・・・ 小原 寿美さん（広島文教女子大学）
9. 日本語学校で教える
・・・ 丸山 友子さん（コミュニケーション学院）
10. NPOで活動する
・・・ 土井 佳彦さん
（NPO法人多文化共生リソースセンター東海）
11. 難民に教える
・・・ 中野 美紀さん
（公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部）

1セッションは5名まで、全3回のセッションを行います。最大で3人の先輩の話が聞けます。

第1回：10:00～10:45

第2回：11:00～11:45

第3回：12:00～12:45

※本セッションは事前申込制です。1日目 10月1日（土）終了後に会場受付にて事前予約を受け付けます。残席がある場合、2日（日）午前9時30分から会場にて申込を受け付けます。

1. 海外で教える [海外派遣 日本語専門家]

国際交流基金関西国際センター所属
日本語教育専門員
信岡 麻理（のぶおか まり）さん



<プロフィール>

「海外で教える」経験としては、オーストラリアの国際交流基金シドニー日本文化センターで3年、中国の清華大学で2年、日本語教育の仕事に携わりました。現在は、国際交流基金関西国際センターで、eラーニング教材の開発や、時には研修生への授業を担当しています。

その他、筑波大学留学生センターでのeラーニング教材開発、中国帰国者支援・交流センターでの日本語スクーリング、日本語教師養成講座、日本語学校などの仕事に携わってきました。

<メッセージ>

日本語を学ぶ目的は国や地域、時代や年代、個人によってそれぞれ異なります。どのように学ぶのか、なにで学ぶのかの答えも、ひとつではありません。当然のように謳われているこの言葉を本当の意味で理解し始めたのは、海外に赴いたときだったように記憶しています。

「様々な現場で柔軟に、臨機応変に、個々の事情を尊重しながら…」正に言うはやすしで、実際の自分とはほど遠いのが現実です。ただひとつ言えること、海外で日本語教育に携わらせていただいたことで、自分の中の引き出しが（ほんの少しですが）増えたように思います。

2. 海外で教える [日本語パートナーズ]

白井 友恵（しらい ともえ）さん



<プロフィール>

香川県出身。東京外国語大学でフランス語を学び、在学中フランスへ語学留学。留学の経験から日本語教師になることを決意。2013年より、東京の日本語学校で非常勤講師として勤務。担任業務、初級から中級の日本語の授業を担当した。2014年12月より、国際交流基金アジアセンター「日本語パートナーズ」としてベトナムへ。現地の中学校、高校の日本語の授業に関わった。2015年10月より「EPA 看護師介護福祉士候補者日本語教育予備事業」でフィリピンへ渡る。日本で働く予定の看護師、介護福祉士候補者への日本語教育に関わった。現在、大学院進学を目指して勉強中。

<メッセージ>

まだまだ日本語教師としても1人の人間としても経験が浅く、大それたお話はできませんが、ひょっこだからこそ、これから日本語教師を目指される方にとって身近な立場でお話ができるかなと思っています。また、EPA 日本語教育予備事業での経験や、「日本語パートナーズ」の活動内容、現地での生活についても、写真や現地で使っていた教科書などをお見せしながらお話をしたいと思います。海外に出て、さまざまな人と関わる中で考えることも多くありました。現在、EPA 候補者のように日本で働き、生活する外国の方にとって本当に意味のある日本語教育とは、日本語教師とは何だろう…という疑問をもち、大学院進学を目指して勉強しています。皆さんとの対話を通して私自身もいろいろなことを知りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 海外で教える [JICA 青年海外協力隊]

芦屋国際学院大阪校所属

浦井 智司（うらい さとし）さん



<プロフィール>

京都府出身。高校時代カナダ人ネイティブ教師の影響から、日本語教師を目指し始めました。2011 年大学卒業後 2013 年までの 2 年間、タイ国パヤオ県立中高一貫校で中学生から高校生までに第二外国語科目として日本語を教えました。その後、青年海外協力隊として 2013 年から 2015 年の 2 年間中国内モンゴル自治区の大学で第一外国語として日本語を学ぶ大学生に日本語を教えました。昨年帰国後、京都外国語大学院にて博士前期課程で日本語教育について研究しながら、大阪の日本語学校で非常勤講師をしています。

<メッセージ>

私の海外経験 4 年間はいわゆる発展途上国でしたが、将来日本語を使った仕事に就くために日本語を勉強するわけではない学習者たちだったり、日本留学や卒業後日系企業等で日本語を使用する可能性がある学習者だったり、同じ海外でも対象者が違いました。そして、帰国後は日本語学校で受験用の日本語を教えています。難しい話が苦手な分、色々な日本語教師の形を体験した上での私の考える日本語教師の幅広い需要や海外、特に途上国での日本語教師独特の楽しさをお伝えできればと思います。

4. 海外で教える [JICA 日系社会青年ボランティア]

岩永 麻里（いわなが まり）さん



<プロフィール>

慶応義塾大学卒業後、ミャンマー、中国で日本語教師をした後、小売業の会社に就職。2013 年から JICA 日系社会青年ボランティアとしてドミニカ共和国（長期）とブラジル（短期）に滞在し、日系人子弟に継承日本語教育を行い、日本語教育が自分のライフワークであると再認識する。帰国後、大阪の専門学校で留学生クラスの非常勤講師として働きながら、会社でも働く 2 足のわらじ生活を送っている。

<メッセージ>

JICA の日系社会ボランティアとして赴任した日系社会での日本語教育は、これまで私が経験してきた日本語教育とは大きく異なるものでした。特に子供たちへの指導は難しく悩むことも多々ありましたが、子供たちの笑顔や、その成長を見守る親やコミュニティの人たちの笑顔に励まされ、より一層頑張ることができました。日系社会での日本語教育（継承日本語教育）の醍醐味をお話できたと思います。

5. 外国にルーツのある子供たちに教える

HAHAHA、西尾市早期適応教室

菊池 寛子（きくち ひろこ）さん



<プロフィール>

京都外国語大学でポルトガル語を学び、ブラジルのリオデジャネイロへ1年留学。帰国後、大阪外国語大学で日本語教育を学ぶ。民間の日本語学校で2年、関西の諸教育委員会で主にブラジル人子弟の支援に関わりながら、法廷通訳なども行っていた。生計を立てていくのに大変なため、やめようかと思っていた矢先に、愛知県教育委員会で語学相談員募集の話を聞き、それをきっかけに愛知県に拠点を移す。現在は、フィリピンやベトナムなどの児童生徒たちと接することが多く、ポルトガル語も忘れてしまったが、活動内容はスクールソーシャルワークや“まちづくり”に近いと思っている。

<メッセージ>

日本にやってきた子どもたちは、5歳ころから10年近く親と離れて暮らしていたり、異国の地で新しい家族とうまく付き合っていかなければならないストレスがあったりします。日本生まれでも自分のルーツを堂々と言えないようなところもあります。そんな彼らの自尊感情を育て、興味関心を広げるお手伝いをさせてもらうことは、とても楽しいです。彼らのいろんな背景を知り、必要に応じて専門家とつなげていくことが大切なので、いろんな方が彼らに関わってくれることを願います。

6. 就労希望者に教える

一般財団法人日本国際協力センター 研修事業部
日本語主任講師

小笠原 雅子（おがさわら まさこ）さん



<プロフィール>

中学時代にアメリカからの留学生に出会ったことから日本語教師という職業に関心を持ち始め、大学で日本語学を専攻し、日本語教師になりました。主に国内の大学等への進学を希望する留学生に対する日本語教育に携わっていましたが、現在は、日本での安定就労を希望する定住外国人に対する日本語教育及び関連業務を担当しております。

<メッセージ>

初めて教壇に立った日から、試行錯誤を繰り返し、行き詰まり、悩みながらも、御縁のあった学習者やメンター、同僚のおかげで、やりがいのある日本語教師生活を送っております。今回、一日本語教師としての経験などについてお聞きいただき、何かしらお役に立てましたら幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

7. 技能実習生に教える

公益財団法人国際研修協力機構（JITCO）

能力開発部 援助課 専門役

黒羽 千佳子（くろは ちかこ）さん



<プロフィール>

高等学校国語科教諭（愛知県）を経て以前から興味があった日本語教育へ。
東京外国語大学日本語学科卒業後、同大学院博士前期課程（日本専攻）修了。
国際交流基金派遣日本語教育専門家（ブカレスト大学（ルーマニア）、ローマ日本文化会館（イタリア））。
海外技術者研修協会（AOTS 現 HIDA）にて EPA 看護師候補生向け教材開発に携わる。
日本大学国際課非常勤講師、リーマンブラザーズ証券株式会社社内研修講師等を経て現職。
技能実習生の日本語指導員対象のセミナー等の実施やインターネットでの教材提供等に関わる。

<メッセージ>

外国で暮らしてみたい、そのためには日本語教師だと思ったのが出発点です。実際に外国で生活した際の、何が聞けて何が言えて、何が読み書きできたら役立つかといった具体的体験の自己観察は、技能実習生にとって「異国」である日本での言語生活を考える今の仕事にも役立っています。

技能実習生への日本語指導は、全国の「監理団体」が主に行いますが、日本語教育のバックグラウンドのない人が担当している場合が多いのが現状なので、日本語教育の知識やスキルを活かして日本語を指導しながら、技能実習生の生活全般に関わることに興味のある方には、「監理団体」は魅力的な上に歓迎される職場のひとつだと思います。

8. 看護・介護職希望者に教える

広島文教女子大学 人間科学部教養教育部

小原 寿美（こはら ひさみ）さん



<プロフィール>

看護師として約 10 年間働いたのち、結婚後、山口県にて日本語教師となる。以後、夫の転勤に伴う転居・子育てなどを経験しながら、非常勤講師として、日本語教師および日本語教師の養成に約 15 年携わる。2010 年、広島県下で EPA 看護師候補者の支援グループを立ち上げ、看護師国家試験対策支援を開始。チームで協働し、看護師国家試験対策テキストを作成した。その後、専門学校にて中国人留学生の看護師国家試験対策を行いながら、介護教員資格を取得。以後、外国人も在籍する介護福祉学科における介護教育に携わりながら、専門学校のマネジメント業務にも携わる。2015 年より広島大学社会科学部研究科（マネジメント専攻：博士後期課程）に在籍し、キャリアをテーマとして研究を開始。2016 年 4 月より現在の勤務大学でキャリア教育を担当。2016 年 7 月より、「看護と介護の日本語教育研究会」幹事。

<メッセージ>

みなさんは、何のために日本語教師になったのでしょうか。これから、何のために日本語教師という仕事を続けていこうとするのでしょうか。キャリアの理論の一つに、人生は計画された偶然の連続であるとする考え方があります。偶然を意図的・計画的にステップアップの機会としていきませんか？そのために何が必要か、ともに考えてみましょう。

9. 日本語学校で教える

コミュニカ学院 教務主任

丸山 友子（まるやま ともこ）さん



<プロフィール>

福岡県出身。活水女子大学文学部日本文学科に入学。日本語教員養成副専攻課程を修了。在学中は日本語ボランティア教室をはじめ、日本語教育関連の活動に参加。3年次にはコミュニカ学院でインターンシップを経験。大学卒業と同時に JICA 日系社会青年ボランティア（日本語学校教師）としてパラグアイに2年派遣。その後、上海の日本語学校で勤務。2006年よりインターンシップ先であったコミュニカ学院に入社。学内の教材開発チームの一員となり、読解教材『読む力 中級』『読む力 中上級』（くろしお出版）を出版。現在『読む力 初中級』を執筆中。

<メッセージ>

日本語教師になってまだ十数年ですが、学習者の成長、人生に関わっていけるということに日々幸せを感じています。もちろんその分責任もありますが、それ以上にやりがいを感じています。常に新しい視点に気づき、気づかされ、見方や考え方の世界を広げていくことができます。

私が就職活動を考え始めた頃は、日本語教師募集の多くは経験年数や雇用形態など条件が厳しいものが多く、新卒にはハードルが高いものでした。しかし、今は日本語学校のハードルが低くなっています。教師不足で、新卒でも経験が少なくても採用したいというところが増えていきます。

ボランティア、国内外での実践経験もありますので、日本語学校を含め、それぞれの特徴や違い、あるいは不安に思われていることなどありましたら、何でもご質問いただければと思います。

10. NPO法人で活動する

NPO法人多文化共生リソースセンター東海

代表 土井 佳彦（どい よしひこ）さん



<プロフィール>

広島市出身。大学で日本語教育を学び、卒業後は留学生や海外技術研修生らを対象とした日本語教育に従事。同時に、地域の日本語教室にもボランティアとして参加。2008年度より、多文化共生分野の中間支援 NPO「多文化共生リソースセンター東海」の設立に参画し、代表に就任。翌年 NPO 法人認証、代表理事となり現在に至る。

2016年度より、文化庁「地域日本語教育スタートアップ事業」でアドバイザーを務める。年間50回程度、地域日本語教室の運営改善や人材育成に関する研修を担当。

<メッセージ>

「NPO って、食べていけるんですか？」と、今まで数え切れないくらい聞かれました。答えはもちろん、食べていけてますよ。むしろ、日本語学校や大学で非常勤講師をしていたころのほうが、生活は苦しかったです（苦笑）。「いったい、どうやって・・・？」その答えは、会場で。

1 1. 難民に教える

(公財) アジア福祉教育財団 難民事業本部

関西支部 日本語教育相談員

中野 美紀 (なかの みき) さん



<プロフィール>

大学卒業後、タイのアユタヤ教育大学、ブラパー大学にて通算4年間日本語講師として勤務する。日本に帰国後は一般企業の事務職と日本語学校講師を掛け持ちしつつ、青年海外協力隊（日本語教師）にチャレンジ。2002年から中国（内モンゴル自治区）の高校に派遣される。帰国後、「在住外国人のための日本語講座」（姫路市）を担当。2005年から現職。1児の母。

<メッセージ>

ヨーロッパを目指して海を渡るシリア難民の様子を様々なメディアでご覧になった方も多いと思います。「日本に難民はいるのかな?」「難民に教えるってどういうことだろう?」と関心をお持ちになった方もいらっしゃるかもしれませんね。実は日本にはインドシナ難民、条約難民、第三国定住難民の3つのカテゴリーに属する難民の方々がいます。

私が主に関わっているインドシナ難民、条約難民の方々に対する支援を中心にお伝えしたいと思います。

●アンケートへの御協力をお願い●

日本語教育研究協議会への御参加ありがとうございます。

文化庁では、これからの協議会をより良いものにするために、参加者のみなさまにアンケートをお願いしています。

本協議会への感想や、登壇者へのコメント、文化庁への御意見など、お寄せください。お書きいただいたアンケートは、会場受付のアンケートボックスに投函してください。よろしくお願いいたします。